

平成30年度 第1回小郡市総合教育会議 会議録

1. 日時

平成30年9月25日（火曜日）午後3時から

2. 場所

小郡市役所 西別館3階会議室

3. 出席者

市長	加地良光
教育長	清武輝
教育委員	山田英昭
教育委員	村橋理恵
教育委員	柏木和治
教育委員	島田郁子

4. 欠席者

なし

5. 会議に出席した事務局職員

（市長部局7名）

副市長	見城俊昭
経営政策部長	山下博文
子ども・健康部長	児玉敦史
経営戦略課長	熊丸直樹
保育所・幼稚園課長	川村博二
コミュニティ推進課長	松下雅行
経営戦略課政策推進係長	白石和章

（教育委員会事務局3名）

教育部長	黒岩重彦
教務課長	神代美紀
教務課教務係企画主査	大塚芳崇

6. 協議事項及び議事の内容

（1）三国地区の幼児施設のあり方について

(保育所・幼稚園課長) 三国地区の幼児施設のあり方について説明

(子ども・健康部長) 幼児施設に関するアンケート調査結果報告についての説明

(保育所・幼稚園課長) 補足説明

今後、タウンミーティングでアンケートの結果等を説明する予定。そこで市民の皆様から改めて意見をいただきたい。10月末に向けて、方針を決定していく予定。

(市長) 補足説明

この問題は、三国幼稚園と小郡幼稚園の統合の問題から始まり、苦肉の策で、2つの施設を1つの施設にし、どうしても公立幼稚園の役割を残したいという当時の皆様の思いがあったと思う。そのあと、市民の皆様とお話する中で、三国の地区にも何らかの施設が必要であるという強い要望があり、国の無償化の動き、小郡市の待機児童の問題を考え、全体の動きの中でその配置について考えるという動きになった。アンケート調査により、小郡市がどうあるべきかの情報が出揃ってきたところ。今後、10月末に向かってしっかり方針を出していきたい。

質問・意見等

(委員) 幼稚園・保育園の中には、特別な授業のやり方を行っているところがあり、例えば、英語教育など学力の面を強化したりしている。無償化になると、特別な授業をしている方に流れていくということがある。三国地区に施設を作る場合は、そのような対応が必要である。残る小郡幼稚園は、小学校との繋がりを大事にしているので、それを踏まえた上で、三国地区の幼児施設を検討してほしい。

(委員) 今回の協議事項は、三国地区の跡地をどのように活用するのかというのが議題ではないのか。

(市長) その方向性をどうするのかについては、今後方針を出していく。

(委員) どうしたいのか見えない。例えば、宝城幼稚園の跡地については、教育センターになっている。三国幼稚園の跡地を子どもたちのためのスペースにしたい。例えば、公園のように遊ぶことができるなどの提案はないのか。個人的な意見としては、跡地を開放し、1人～2人の監視員を付けたらどうか。幼児教育に優れた人を配置したら良いと思う。

(市長) 大きな流れを考えると、この地域に一定の幼稚園機能を求める声が大きかったことがアンケートから分かった。全体的に見ても、このままの施設の状態ではいけないというこ

とは分かっているが、廃園して自由に利用するという余裕は今の所ないと思う。

(委員) アンケート結果の中で、のぞみが丘小学校区と三国小学校区の私立幼稚園の希望者が多い。公立の幼稚園の希望はたくさんあって、預かり保育をしたらもっと増えるだろうと予測していたが、そうではないところがある。これがなぜかもっと分析をするべきではないか。私立幼稚園と公立幼稚園の明らかな違いがあるのではないかと考える。

(委員) 三国小学校、三国中学校は、共にマンモス校なのに、その地区の幼稚園が今回のようになり、非常に残念に思う。今回の問題で一番ネックになっていることは何か。

(子ども・健康部長) 子どもは減っているが、保育所に行きたいというニーズが高まっている。子どもを預けて働きたいが、子どもを預けることができないために、家にいるということがある。受け入れ態勢が今の保護者のニーズに追いついていないということがある。

(委員) 小郡幼稚園で預かり保育をするというのは大きな一歩であると思うが、夏休みに子供を預かってもらえなければそこで仕事を辞めなければならないというのがある。夏休みに子どもを預かってもらえるというのであれば、お金を出してでも、ちゃんと見てもらうということが必要になると思う。3歳以上の子どもたちは、少しはそこに流れるとは思う。現在の待機児童をどのようにするかという問題で、保育士が集まらないことがある。また、聞いた話ではあるが、折り紙まで買えない状況があると聞く。そのような状況の中で新しい施設のお金をどこから持ってくるのかというのがある。

(市長) この問題については、早くから統廃合するように議会などでも言われていて、そのような意見は、今でもある。一方では地域の中で施設の存在の大事さというものがあり、地域の中に子供の声が聞こえるかどうか、皆様の切実な思いがあることを感じた。今後、無償化となるとサービス合戦となり、公立であるから安いという長所はなくなる。なぜ公立が必要なのかという点は、原点に立ち返り検討していかなければならない。

(教育長) 公立幼稚園の存在意義の問題で、公立幼稚園を筑後地区でもっているのは、小郡市のみである。公立幼稚園を残す意義があるのかという意見が一方である。

小郡市には、一定の公立幼稚園へのニーズがある。多様な受け皿を設定しているのが小郡の良さである。両方の受け皿があれば、保護者の選択肢が増えるので、そういう点は、公立幼稚園の意義である。今回、三国地区にその選択肢がなくなるのが今回の問題である。

一方で財政的な問題があって、2園をこのまま維持すると、費用対効果の面でかなり問題があり、いろいろ御意見を頂いて、公立幼稚園で給食、送迎、3年保育・預かり保育ができていないところがある。こういうのができていないので、園児数が減少しているとい

う御指摘を頂いている。それを2園ですると、財政的にもたない。1園に統合し、経費を現状より増やさないようにし、2園分を1園することによって、内容を充実させようという所でやってきたところがある。今後、無償化になるということで、これまでどおりの公立幼稚園のニーズがあるのかというところがある。多様なニーズに応えるということは基本であるが、財政的に厳しいので、そこをどうするのか、民間と公立どちらがどこを担うのかというのを踏まえて、今後検討する必要がある。小郡の場合、付加価値を付けていくことが、今後のニーズに合うのかという所がある。

## (2) のぞみが丘小学校区のコミュニティセンターのあり方について

非公開

## (3) コミュニティスクールの全小・中学校展開について

(教務課長) コミュニティスクール(学校運営協議会制度)の全小・中学校展開について説明

(教育長) 補足説明

コミュニティスクールの制度改正について、補足があります。今回、制度改正があり、平成29年4月から施行ということになっています。

一つ目は、学校運営協議会の設置の努力義務を課すということ。

二つ目は、必要な協議の役割、必要な委員の追加。

三つ目に校長の意見の申出についてであるが、委員については、校長が意見の申出をして、校長がリーダーシップを発揮できるような委員構成を大事にするということが示されている。また、学校運営協議会は、原則学校に一つということになっているが、これからは、二つ以上の学校で一つ設置できるということになっている。近い小学校同士、中学校同士で一つということができるようになっていく。このことを踏まえて努力義務化されているというのがある。平成31年度には、小郡市の全ての小中学校で実施していきたい。

質問・意見等

(市長) コミュニティスクールは、とても理想的で語るのはとても素敵だが、学校のためにみんな協力しようと捉えないようにしてほしい。祭りなどは、学校の行事なので、当然手伝ってくださいというのがあるが、地域の人が学校に出ていくが、学校の先生は、地域に入ろうとせず、位置関係は非常に難しいところがあると思う。これは、実のあるものにしてほしい。本当に地域の人が学校に関わっていくのなら、学力調査の結果をどこまで公開するのかという話がある。市の平均で他の地域より学力が良いということが分かると思うが、学校単位では、ばらつきがある。そういうことを開示して、地域の人と考えていく決意があるかどうかというのが問題提起としてある。複数校で一つの協議会を持つことができる

ということで、立石小学校、立石中学校の小規模校でやってほしいということがある。まさに良い例になると思う。

(委員) コミュニティスクールは、校長先生が学校の運営方針を作って、先生たちに公表する。今までは、地域のことを見ずに、学校内だけで主に方針を出しているので、コミュニティスクールが入れば、地域のことを考えた上での、公表になるので、学校のトップがずいぶん変わるのではないかと思う。市長から言われた学力状況調査については、調査なので、教育委員会が検討しながらやってほしい。私は、市内の中学校に在籍していたが、地域の方に協力をしてもらおうけど、地域になかなか出て行かない、子どもを地域に出さないということがあった。地域の行事がこれだけあるが、学校の生徒は全然来ないということがあった。地域行事が優先ということで、部活動を休みにして、地域の行事を優先にしたことがある。地域との関係を作っていければよいと思うので、今後、小郡市内の学校で是非してほしい。予算が必要な場合は、市長の方で考えてほしい。コミュニティスクールに関しては大賛成である。

(委員) コミュニティスクールは数年間関わらせていただいたが、最初は、地域の人から学校は何もしてくれないという話が出ていた。様々な課題が出る中で、地域の方から前向きなアドバイスがあり、先生方の士気も上がることになったと思う。また地域の人も先生たちの大変さを理解でき、良い循環になった。そういう潤滑油のような役割がコミュニティスクールだと思うので、何年間かしばらく続け、その先に地域に出ていくということで、しばらくは見守ってほしい。

(教育長) 今、市長から言われた、学校が一方的に地域に協力を求めるように見えるというのは、率直に意見としていただければと思う。教員も、学校と地域との関係、自分の居住地での関係の2つがある。両方の目で教職員を見ていけないといけないということがある。学力調査の結果については、運営協議会の中で結果を出しているところ、グラフで出しているところもある。難しいところではあるが、ある程度出しながら共有していくことは大事であると思う。最後の立石小学校、立石中学校の件については、考えさせていただきたい。

#### (4) 部活動指導員の配置について

(教務課長) 部活動指導員の配置について説明

(教育長) 補足説明

教職員の時間外勤務の一番大きなものとしては、部活動によるものである。中学校と連携して進めているところで、長期休業中も部活動の時間を制限して、3～4時間以内という取り組みを進めている。部活動指導員を配置・拡大しながら、現場の負担軽減を行っていきたい。

小郡市は非常に部活動に熱心で、非常に良い成績を上げていて、ほとんど問題行動がないということがありますが、これからの部活動がこのままで良いのかというのは、校長会で話し合いながらこれからの部活動のあり方について、考えていきたい。

#### 質問・意見等

(市長) 担い手としては、スポーツ協会が動き出すところなので、連携して、ノウハウを確保して、協力できるのではないかと思います。今後は、学校からの切り離しも含めて考え、多様なスポーツを経験できるようにしてはどうか。生徒数が少ない学校ではスポーツ競技も決まってしまうため、やりたい学校で集まるなどを行ってもよいのではないかと思います。先生の負担を緩和するという目的も含めて、配置については、積極的に進めていただきたい。

(委員) 先生たちのためにも、このようなやり方を進めていくのと併せて、部活動指導員は、子どもと接する方なので、ある程度の人格的な方でないといけないと思う。性格的な部分も把握した上で、配置という形をしていかないといけない。中学校の部活に熱心に考える保護者が多くて、良い指導者がいたら、住所替えをしてもその学校に行くなどならないように人選も含めてやっていただきたい。

(委員) 最初は外部指導者を入っていた。顧問教師と校長先生が推薦して、それぞれの地区の中体連会長が面接して、承認をするという流れであった。外部指導者は、学校の方針に反する方はほとんどいなかった。この指導員をできる方はいるのかと思う。単独で部活動を行うことができ、大会に引率できる。責任はかなり重い。けがしたら誰の責任なのか。学校がやっていることを進めてほしいが、いい方向に進むように検討してほしい。学校の先生が部活動指導員を兼ねるということがあり得るのではないかと思います。小郡市、三井郡は下校時間が決まっていて、下校時間の後、2時間くらいは部活をしている学校があった。学校の教員が部活動指導員を兼ねることは、教職員の負担軽減にはならないので、やめてほしい。あと、社会体育に入っていると中体連には参加できない。中体連の会長とも話し合って検討してほしい。

### (5) ICT教育の充実について

(教務課長) ICT教育の充実について説明

(教育長) 補足説明

情報化社会に対する取組について、今後進めていきたい。

#### 質問・意見等

(市長) 今後、環境整備が大切であると思う。小規模校から取り組んでいくなどの取組を検

討してほしい。